

教科(科目)	地理歴史（地理探究）	単位数	2	3単位	学年(コース)	6学年
使用教科書	新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材等	新編地理資料2024(とうほう) データブックオブザワールド(二宮書店) 地理用語集(山川出版) 地理力UPノート(数研出版)					

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①幅広い教養を身につけ、他者と協働しながら、粘り強く挑戦し続け、地域社会や国際社会に貢献する意欲や資質・能力を備えた人材を育成します。 ②主体的、自律的な人間として、行動力にあふれ、自他を大切にする思いやりの心とリーダーシップを兼ね備えた人材を育成します。 ③主体的に学ぶ力を身に付け、社会における課題等に気づき、創意工夫、試行錯誤を重ね、その解決のために行動できる人材を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、発達段階に応じて1・2年を「基礎の充実」、3・4年を「発展・挑戦」、5・6年を「自律・深化」に分け、学習内容の確かな定着、主体的で対話的な学習態度の育成を図りながら次の教育活動を展開します～ ①総合的な応用力、学問への探究心を育むとともに、知識や技能を活用するための思考力、判断力、表現力を育成する課題解決型の授業を実施します。 ②他者とコミュニケーションを取りながら、地域社会や我が国の魅力を国内外に発信できる知識・技能等を高めるための学習活動を実施します。 ③身に付けた力を社会で発揮するため、地域貢献活動、社会体験活動への参加を推進します。 ④自己肯定感を高め、他者を思いやり、多様性を理解する態度等を育成するため、系統的な特別活動や学年を超えた多様な体験活動を実施します。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通しての資質・能力を育成すること。この資質・能力は、①知識及び技能の習得。②思考力・判断力・表現力等の育成。③学びに向かう力・人間性等の育成のことである。①の知識は、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地理的特色や課題の理解のことであり、技能は、地図や地理情報システムを用い、地理的情報を調べる技能のことである。②の考察力とは、地理的事象を系統・地誌的に多面・多角的に考察する力のことであり、判断力は、地理的課題の解決に向けて構想する力のことである。そして表現力等は考察・構想したことを説明したり、議論したりする力のことである。③の学びに向かう力とは、地理的な課題を主体的に探究しようとする態度のことで、人間性等とは日本国民としての自覚や我が国の国土に対する愛情や世界の多様な文化を尊重することの大切さを自覚していることである。

3 指導の重点

- ① 社会的事象に対する知識及び事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題の理解を深める技能を身につける。
- ② 地理的な事象を多面・多角的に考察する力、地理的課題の解決にむけて構想する力を身につける。
- ③ 地理的な課題を主体的に探究しようとする態度や日本国民としての自覚、日本の国土に対する愛情を涵養する。

世界の多様な文化を尊重する態度を養う。基礎事項の定着を目指すとともに、科目への興味・関心を高めることを通じて、現代の諸課題に対して自主的・自立的にアプローチできる能力を育む。

- ④ 世界の多様な文化を尊重する態度を養う。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識及び技能の習得のために、地図や地理情報システムを用い、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題を理解し、様々な課題を解決するための基礎的な知識を得ようとしている。	・思考力、判断力、表現力等の育成のために、現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景や国際社会の変化を踏まえて地誌的に考察したりし、地理的課題の解決に向けて考察・構想したことを説明したり議論したりしている。	・学びに向かう力、人間性等の涵養のために、地理的な課題を主体的に探究しようとする態度を身につけ、日本国民としての自覚や日本の国土に対する愛情を育みつつ、世界の多様な文化を尊重することの大切さを自覚し人間性を向上させている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	- 世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性、地域的特色や課題を理解しようとしている。 - 地図や地理情報システムを用いて、地理的情報を調べようとしている。	- 地理的事象を系統・地誌的に多面・多角的に考察しようとしている。 - 地理的課題の解決に向けて構想する力を身につけようとしている。 - 考察、構想したことを説明したり、議論したりする力を身につけようとしている。	- 地理的な課題を主体的に探究しようとしている。 - 日本国民としての自覚を育もうとしている。 - 我が国の国土に対する愛情を育もうとしている。 - 世界の多様な文化を尊重する心を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査、小テスト、レポートやワークシートなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、定期考査、小テスト、レポートやワークシートなどから、評価します。	以上の観点を踏まえ、授業中の発言、発表や討論への取組の観察レポートや提出物などから、評価します。

6 学習計画

4	第2部 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 1節 地域区分 1 地域区分の意義と指標 第2章 現代世界の諸地域 序説 地域の考察方法 1 地誌的な考察方法 1節 中国 ①中国の政治体制 ②中国の食生活と農業・水産業 ③中国の工業化と海外進出 ④経済発展に伴う様々な課題 2節 韓国 ①韓国の歴史と生活文化 ②産業の発展と生活の変化	2	・世界や世界の諸地域に関する各種の主題図や資料をもとに、世界をいくつかの地域に区分する方法や地域の概念、地域区分の意義などについて理解している。 ・世界や世界の諸地域の地域区分について、地域の共通点や差異、分布などに着目して、主題を設定し、地域の捉え方などを多面的・多角的に考察し、表現している。	2	・小テスト ・提出課題 ・授業態度 ・朝テスト ・定期考査
5	3節 ASEAN諸国 ①ASEAN諸国の歴史と文化・民族 ②ASEAN諸国の農業とその変化 ③ASEAN諸国の工業とその発展 ④ASEANの変化と課題 4節 インド ①急速な経済成長を支えた産業の発展 ②増加する人口と農村の変化 ③インド社会の変化と経済格差の拡大	1 1	・日本と距離が近い韓国の自然環境や歴史、生活文化、産業などの事象を理解している。 ・日本と距離が近い韓国の自然環境や歴史、生活文化、産業などの事象を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・韓国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国について、文化・民族や産業などの事象を理解している。 ・近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国について、文化・民族や産業などの事象を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ASEANについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	1 1	
6	○上記の範囲の問題演習	6	・近年急速に工業化が進んでいるASEAN諸国について、文化・民族や産業などの事象を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ASEANについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差などの課題を理解している。 ・近年急速に経済が成長しているインドについて、産業の発展や農村・社会の変化、国内の経済格差などの課題を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・インドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	6	

6	5節 西アジアと中アジア ①イスラームと人々の生活文化 ②交易の歴史と乾燥地域の農業 ③豊富な資源を生かして進められる開発 6節 北アフリカとサハラ以南のアフリカ ①歴史的な背景によって形成された多様な文化 ②他地域との結びつきと人々の生活の変化 ③一次産品への依存とそれがもたらす課題 7節 EU諸国 ①EUの成り立ちと結びつき ②ヨーロッパの多様な農業と政策 ③移り変わるEUの工業 ④EU拡大による影響と課題 8節 ロシア ①ロシアの成り立ちと体制変化 ②体制変化が産業にもたらした影響と課題 ○上記の問題演習	6	・西アジアと中アジアの共通点が多い自然環境や生活文化、異なる歴史などを比較して地域の一般性や地域の特異性を理解している。 ・西アジアと中アジアの共通点が多い自然環境や生活文化、異なる歴史などを比較して地域の一般性や地域の特異性を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・西アジアと中央アジアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカの2つの地域を比較し、一般性や地域の特異性を理解している。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカの2つの地域を比較し、一般性や地域の特異性を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・北アフリカとサハラ以南アフリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・EUを中心に政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など様々な事象について理解している。 ・EUを中心に政治・経済の統合を進めているヨーロッパについて、民族や産業など様々な事象について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・EU諸国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・ロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連付けて理解している。 ・ロシアについて、農業や工業を国家体制の変化に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・ロシアについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	6	・小テスト ・提出課題 ・授業態度 ・朝テスト ・定期テスト
7		1 1		1 1	
9	9節 アメリカ合衆国 ①移民国家としてのアメリカ合衆国の発展 ②世界の食料生産の鍵を握るアメリカ合衆国 ③進展する科学技術と産業 ④多民族社会と移民増加に伴う課題 10節 ラテンアメリカ ①ヨーロッパの影響が強い社会 ②大土地所有制と農業の変化 ③工業化の進展と経済発展 ○上記の範囲の問題演習	1 2	・移民国家としての多様性をもち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国についての様々な事象を理解している。 ・移民国家としての多様性をもち、世界有数の農業国であり、先端技術産業でも世界をリードしているアメリカ合衆国についての様々な事象を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・アメリカ合衆国について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・ヨーロッパ諸国の支配を受けた歴史的背景があり、それが人々の生活や産業に深く関わっているラテンアメリカについて理解している。 ・ヨーロッパ諸国の支配を受けた歴史的背景があり、それが人々の生活や産業に深く関わっているラテンアメリカについて多面的・多角的に考察している。 ・ラテンアメリカについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	1 2	・小テスト ・提出課題 ・授業態度 ・朝テスト ・定期テスト

10	11 節 オーストラリアとニュージーランド ①移民の歴史と多文化社会 ②自然の恵みを生かして発達した産業 ③強まるアジア・太平洋圏との結びつき ○上記の範囲の問題演習 第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究 1 節 将来の国土の在り方 ①日本の強みと地理的な課題	1 2	・南半球の移民国家という共通点があるが、自然環境や産業では違いが見られるオーストラリアとニュージーランドについて、理解している。 ・南半球の移民国家という共通点があるが、自然環境や産業では違いが見られるオーストラリアとニュージーランドについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・オーストラリアとニュージーランドについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 ・現代世界における日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や国土の在り方を探究する手法などについて理解している。 ・現代世界における日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や国土の在り方を探究する手法などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。	1 2	・小テスト ・提出課題 ・授業態度 ・朝テスト ・定期テスト
11	上記のオーストラリア、ニュージーランドの問題演習	1 2	共通テスト対策問題に取り組む。	1 2	
12	全地誌的分野の問題演習				
1 2 3	2 節 持続可能な日本の国土像の探究 ①課題の把握 ②課題の追究 ③課題の解決	2 9	自主的に課題を設定し、資料を収集・分析し自分の意見をまとめる。	2 9	レポート

計 110 時間 (48 分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 週末課題, レポート等
- ・ 長期休業中の課題

7 担当者からの一言

グローバル化が進展している中で、国際理解の必要性が増している。国際社会の様々な事象を地理的な見方、考え方により、課題を追究したり解決したりする能力は現代社会を生きる人間の必須の能力である。これらを地理探究で身につけることは有意義なことであるので是非前向きに取り組んでもらいたい。